

# 防災訓練再開と組織のリハビリで 元の強靱な危機管理を取り戻そう

2011年3月11日14時46分のあのときから12年が経った。あの日北海道消費者協会の故桑原会長に誘われて東京渋谷区のNHK広場で開催される全国物産展に参加するため、バイトの高校生を引き連れてちょうど会場に着いたところだった。

東京では立ってられないほどの揺れが長く続き、搬送トラックの荷台が左右に揺れ、街路灯や街路樹が大きくしなっていた。東京タワーのアンテナが曲がってしまった日である。雪の散らつく寒い日にイベント主催者のNHKの中止連絡が入るまでイベントテントの荷物も解けずに震えていたのを覚えている。当時はワンセグのテレビを見られる携帯があり、その間に津波の映像と何百人もの死体が浮かんでいるというニュースが流れた。北海道プールの向か

いの福島県プールの人たちは真っ青な顔でなんとか車を手配してすぐに地元に戻ると飛び出している。すでに帰宅困難者の波が始まっていて、バイトの子どもたちの宿泊と食事と帰りの飛行機を手配してテント番だけが残ることになった。NHKの担当者にはNHKホールを開放するよう頼んだが、1時間も経ってからの答えは出来ないとの返ってきた。防災のNHKがである。翌日、羽田空港のテレビで福島原発の水蒸気爆発の映像が流れた。すぐに気象予報士の菅井貴子さんに「いまは北風だよ」と確認し、東京に住んでいる親戚、友人に電話をかけた。『今すぐに北海道行きの飛行機に乗るか、ガムでも韓国でも取れる飛行機で脱出しろ』と。もしも女川原発の燃料プール

である。

500年に一度、もしくは100年に一度、もしかしたら来年、再来年に自分の町の半分の人々が津波に呑まれて死んでしまうとしたら救命胴衣の予算くらい安いものである。

昨年、斜里町の観光船沈没事故で遺族の方々の悲しみと悔しさは全国に伝わった。海岸沿いの首長、防災担当官みなさんに申し上げる。津波が来たらしようがない。逃げられない。タワーに昇る前にお年寄りも子どもたちもほとんど流される。健康者も若者も流される。それでも救命胴衣を着ていると何人かは助かるかもしれない。そしてきちんと着装していればウレタンならば2ヶ月は浮いているそうである。

防災担当者や自衛隊は生き延びた人を避難させた後にご遺体の回収である。何年かかってもご遺体を全て回収するまでが防災担当者の仕事になる。そのマニュアルはできているだろうか。



▲救命胴衣を配布・配備すべき

世界中の全ての飛行機に救命胴衣を積んで必ずアテンションしているのは、毎日飛行機に乗って8600年に一回海に墜落する確率のリスクに備えているから



危機管理コンサルタント

越智文雄の

## 時論・持論・自論

〈第11回〉東日本大震災から12年

がやられていたら東京全体がホットスポットで日本沈没並みの避難パニックが起きていたはずである。

### ■日本海溝・千島海溝津波の危機

その後の経緯と悲劇は3・11特集記事や報道番組がおさらいしてくれると思うが、翻って、いまの防災体制はどうなっているだろう。この経験から南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝大地震による30級級の津波シミュレーションが想定されハザードマップで北海道でも市町村毎に十数万人の死者が想定された。いま目の前にある最大の危機である。

泊発電所は震災後の規制審査を通すことが出来ず、裁判所からは堤防の造り直しが命じられている。2019年9月の北海道胆振東部地震では最長1週間にも及ぶブラックアウトが襲った。もう起きないとは言えない。さてもう一度シミュレーション

### ■ブラックアウトに備える

胆振東部地震のとき、泊発電所は停止中で、震度5で主力の苦東火力発電所が緊急停止した。本来ならばバックアップ電源になるはずの北本連系線は稼働せず、満水だった京極揚水発電所も2基とも点検中だったという。いま石狩LNG火力が新設され、北本連系線も増設されつつある。一方で砂川火力など内陸火力は廃止が決定して泊再稼働時には供給電源のバランスは難しくなる。

また、原子力ならではの規制で泊発電所は震度5で緊急停止することになっている。夜間ベース電源の200万キロワットが脱落してもブラックアウトにならないか。当時は泊再稼働がブラックアウト対策なのだと話も流れたが本当か。30級の津波で沿岸インフラ設備がどれほどの被害になるか誰かはシミュレーションしているのだろうか。

れども、今回のブラックアウトは想定しておかなくてはならない。これが真冬ならどうなる。ではどうするか。自家発電、バッテリー、そして乗用車からの給電である。いまトヨタ、三菱のハイブリッドカーには1500ワットのコンセントが搭載されており、避難所となる体育館ひとつ分の電力サバイバルには十分使える。ブラックアウトでセコマが道民の食糧と水を守ったのは車の数十ワットのシガーソケットからの電気だった。

トヨタの豊田章男社長は東日本大震災以降、防災を強力に打ち出しているという意向であったが、社内のコンプライアンス部門がアイドリング条例違反になるので発電機車としての宣伝に反対していると聞いている。非常事態なのだから条例に違反してもいいじゃないか。

避難所での車からの給電で一点注意しなくてはならないのが電圧低下である。ここいらもコンプラ軍団が抵抗するところだ



ろうが、避難所には人工呼吸器や吸痰機を持つてくる人もいます。またコロナが蔓延していたならばエクモごと病院から避難してくるかもしれない。

車からの給電は医療機器、精密機器には使わないで下さいと書いてあるが、非常事態でそんなことは言っていられない。電圧低下しないよう負荷側の電流を制限する機能を付けたコードリールを開発してあるので配備しておいて欲しい。

さて、新型コロナウイルスは、春には2類から5類に緩和され、マスクもなくなり、アルコールも誰も使わなくなるかもしれない。この3年コロナが怖くて再開出来なかった防災訓練もさすがに今年は本格的にやるでしょう。

コロナで怠け癖がついて3年間訓練していない組織をリハビリして元の強靱な危機管理を取

り戻そう。いまや自然災害だけでなくロシアが北方四島にいて目の前で軍事訓練をしているのだから。

### ■ロシアに備える

先日、関西系テレビ局の人気番組「そこまで言って委員会」で日本の防衛をテーマに辛口コメントーターが「北海道の人はもっとロシアの脅威を大きな声で訴えるべきだ」と発言していた。全く同感である。

台湾有事の際の南西諸島の反撃能力についての議論であったが、シミュレーションとして台湾有事で中国が南西諸島を攻撃してきたときには北海道から自衛隊が支援に回る。その空白をロシアが北方領土から攻めてくるという想定であった。今、1年以上続くウクライナの悲劇を見ていて、軍事基地ではなく民間施設を攻撃している狂気のならず者国家に対して反撃能力を持たなくては、北海道はあつという間に侵略され征服される、

と思う。

核兵器はいらないが北方4島のミサイル基地から第1弾が打たれたときに瞬間的に反撃して北方4島の基地を無力化する必要がある。そうでないと第2弾、第3弾、第4弾のミサイル攻撃で我々と子供たちと家族が死んでいくのである。北海道の人は大きな声で訴えるべきである。

南西諸島ではミサイル基地を立地すると自分の島も攻撃されるので反対であるという運動も起きています。北海道は目の前にある現実のロシア基地か



▲北方4島と北海道はこのような距離

ら北海道が攻撃されるのを抑止するためにトマホークミサイル基地を立地するべきである。一撃を受けたならば必ず二撃目は抑止できる物理的な反撃能力こそが未然に攻撃を防ぐ抑止力になるのである。

全国では北朝鮮の弾道ミサイルが撃ち込まれたときのためにシェルターを作るべきだという議論が市議会レベルでも真面目に論じられている。さて、世界でもっとも緊張するべき北海道がノホホンとしていてよいのか。いつまでも平和ボケ、コロナボケしていないで日本で一番の緊張感と緻密な分析シミュレーションをもって自分たちと子どもたちの命を守る覚悟を持つべきである。

#### 〈筆者略歴〉

株式会社あかりみらい代表取締役。北海道大学卒業後、北海道電力入社。電気事業連合会企画部副部長、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長、北海道経済同友会などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体・企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。(一社)次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、日本除菌連合の会長を務める。札幌なにかができる経済人ネットワーク主宰。